

# セックスワーカーのための アドボケーター養成講座

共催：SWASH、レイプクライシス・ネットワーク（RC-NET）【大阪編】  
協力：コミュニティセンターdista

と き：2017年11月4日(土)5日(日)の2日間  
ところ：大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)  
受講料：30,000円(講師陣14人、11講座) 受付締切：先着50名様まで

## 対象

対人支援・相談員、カウンセラー、医療・福祉・保健・教育・防犯等関係者、行政官、政治家、研究者、弁護士、ジャーナリスト、アーティスト、風俗店店長・従業員、出版関係者、学生等、性風俗で働く人々の支援に関心のある方。

## 申込

お申込専用ページ <http://sw-rc.peatix.com/>

※ご入金頂いた受講料のご返金は理由の如何に関わらずいたしかねます。ご了承下さい。  
※1講座のみ、又、1日のみのご参加でも、受講料の金額は変わりません。

お問い合わせ：mail.swash@gmail.com

## 【なぜ養成講座をするのか？】

昨今、セックスワークに関わるニュースなどが世間で注目される機会が増えてきました。そういった中で、相談支援に関わる人を中心として、この問題にどのように関わるべきかということを考える機会も増えて来たと思います。

私たちは、これまでセックスワーカーとして、またセックスワーカーと共にある存在として、セックスワーカーの安全と権利についてを考え実践してきました。セックスワークの是非を問うまでもなく、すでにこの街にセックスワーカーはいて、私たちと一緒に生きています。セックスワーカー自身がサバイブする(生き延びる)ための選択や行動の良し悪しを議論する前に、セックスワーカーには自分に必要な知識と情報を知る権利と必要性があり、それらを尊重する社会を作りたいのです。

労働者としての権利、人としてのそもそもの権利。それらが、社会的な規範や思い込みで侵害されることがあってはなりません。

セックスワーカーが抱える問題は、社会的な差別・偏見による生きにくさ、労働問題、貧困や暴力や性感染症など多岐に渡っています。一つの専門性だけでは支援が困難なセックスワーカーに対し、どう支援したらいいのか悩んでいる支援者の方に対し、これまでの蓄積を元に、今回の研修会を企画しました。講師陣はすべて、セックスワーカー当事者および長年当事者と共に活動してきた人たちです。

セックスワークについて知り、学び、伝え、当事者と共に良い社会のために協働できる人材を増やして行く機会を作れたらと思っています。(アドボケーターは権利を擁護する人)



SWASH (Sex Work And Sexual Health)



レイプクライシス・ネットワーク (RC-NET)

## セックスワーカーの権利

The right to associate and organise  
つながり、組織化する権利

The right to be protected by the law  
法律によって守られる権利

The right to be free from violence  
暴力を受けない権利

The right to be free from discrimination  
差別されない権利

The right to privacy, and freedom  
from arbitrary interference  
プライバシーの権利と、  
恣意的に干渉されない権利

The right to health  
健康でいる権利

The right to move and migrate  
and the right to work and free choice  
of employment  
移動し移住労働する権利と職業選択の権利

2013 年国際セックスワーカーネットワークプロジェクト発行  
「NSWP Consensus Statement on Sex Work,  
Human Rights, and the Law」より

## 大阪会場アクセスMAP

### 【ドーンセンター住所】

大阪市中央区大手前1丁目3番49号

京阪「天満橋」駅、地下鉄谷町線「天満橋」駅  
1番出入口から東へ約350m。



## 共催団体紹介



### SWASH (Sex Work And Sexual Health)

SWASHは、性風俗などで働くセックスワーカーが、「仕事をやっている限りは健康かつ安全に、また、辞めたい時にも健康かつ安全に辞められる」状況を目指して活動するグループで、99年に設立。ここでの「健康・安全」とは、身体的・精神的・社会的の三つの要素を含む。メンバーは、現役/元セックスワーカーとそのサポーターで構成されている。

これまでの活動として、HIV/ 性感染症予防啓発やアウトリーチ、ホットライン、労働実態調査、風俗店オーナー研修のほか、海外のセックスワーカーグループとのネットワーク構築や国際会議参加など、幅広い活動がある。

●web: <http://swashweb.sakura.ne.jp/>

●twitter: @swash\_jp

●facebook: <https://www.facebook.com/swashweb/>



### レイプクライシス・ネットワーク (RC-NET)

2009 年より活動開始。より声を上げにくい人たちの声に耳を傾けたい、という思いで、支援情報の発信、相談事業(電話、メール、面接、同行支援)、居場所作り事業(青森市:Community cafe&bar Osora ni Niji wo Kake Mashita)、人材育成事業、性暴力の社会的予防啓発事業などを通して、性暴力サバイバーにとって生きやすい社会づくりを目指している。

年齢や性別、性自認、性的指向、そして職業や人種、サバイバーの様々な属性によって対応が異なるというようなことは決して起きてはいけないことだか、そこからより、それぞれの属性の中で「同じように」以上の理解と同盟感を持ち相談を出来るように、LGBTIQ、またセックスワーカーについての専門相談員を配置している。

●web: <http://rc-net.info/>

●twitter: @RCNET\_official

●facebook: <https://www.facebook.com/rcnet.jp/>

## 告知

### 【セックスワーク関連企画その1】

**障害者の性の権利とセックスワーカーの  
ドキュメンタリー映画「スカーレットロード」上映会**

2017年9月16日(土)16時大阪ドーンセンター、  
10月21日(土)13時渋谷(詳細はSWASHサイトに)

### 【セックスワーク関連企画その2】

**韓国のセックスワーカー団体・Giant Girlsによる、  
トランスジェンダー(MTF)のセックスワーカーとその顧客が主人公の演劇**

2017年11月22日(水)19時、23日(木・祝)13時or15時、東中野  
11月24日(金)19時大阪予定(詳細はSWASHサイトに)

1日目

10:00  
概論

「なぜ『性』は語りにくいのか？」

「性」はなぜ語りにくいのか？ジェンダーの格差はなぜ生じるのか？セクシュアルマイノリティやセックスワーカーに対する社会的排除はなぜ起こるのか？連続講義をはじめるにあたり、これらの問いに対する現在の人文諸学の基礎的な理論を概観する。



山田 創平

社会学者／京都精華大学全学研究機構社会連携センター長・人文学部准教授。名古屋大学大学院博士課程修了。博士（文学）。公益財団法人エイズ予防財団（リサーチレジデント）、独立行政法人国際協力機構（アジア地域短期技術協力専門家）、MASH 大阪副代表、特定非営利活動法人関西エイズ対策協議会副代表理事などを経て2009 年より現職。現在は京都文化芸術都市創生計画・HAPS 実行委員、京都造形芸術大学非常勤講師などを兼任している。編著書に『たたかう！ LGBT&アート・同性パートナーシップからヘイトスピーチまで、人権と表現を考えるために』（法律文化社、2016）、共著書に『ジェンダーと自由－理論、リベラリズム、クィア』（彩流社、2014）などがある。

11:05  
法律

「セックスワークをめぐる法その歴史と現在」

今なお赤線は「売春が黙認されていた場所」と説明されることが多いが、売防法ができるまで売春自体を規制する法律はなかったのだから、黙認する必要はなく、これは法の無理解による間違った説明。これを筆頭に、セックスワークに関する法は正確に理解されておらず、その業態についても誤解が多い。その歴史を振り返ることによって、その背景にある道徳をも見据え、この国で非犯罪化がどこまで可能かを考える。



松沢 呉一

ライター。1958年生。早稲田大学法学部卒。以降、音楽、映像、放送、出版などの仕事を経て、30代から執筆に専念。著書に街娼を描いた『闇の女たち』（新潮文庫）など多数。

お昼休憩  
13:00  
法律

（12:00-13:00）

「セックスワーカーをめぐる法体系と暴力防止アプローチ～国際編～」

現在セックスワーカーをめぐる法体系は国際的にどのような傾向にあるか、セックスワーカーに対する暴力の防止にはどのようなアプローチがあるのか、その中で、日本の法政策、暴力防止は、どのような方向に進もうとしているのかを紹介する。そして、現場で働く人びとの人権を蹂躪せずに暴力を有効に防ぐ法政策は、セックスワークの現場を越えて広い社会にとってプラスになることも議論したい。



青山 薫

神戸大学国際文化学研究所所属。社会学をバックボーンに、ジェンダー/セクシュアリティ、セックスワーク、国境を越えた人の移動、親密な関係にかかわる権利などについて研究。究極の目標は、社会的な事象の当事者にその結果が役立つための調査方法論を確立すること。

14:05  
MSM  
Men who have Sex with Men

「ゲイ男性のセックスと風俗店とセクシュアルヘルス-堂山の20年を振り返る-」

約20年、MASH大阪は堂山・ミナミ・新世界にあるゲイ男性向け商業施設150店舗に、HIV/AIDSの情報やコンドームを配布し続けてきました。この「アウトリーチ活動」を通して、私たちが体験してきたゲイ男性向けの風俗店やセックスのリアルを紹介し、セクシュアルヘルスとしての感染症予防やスティグマとの向き合い方について、考えてみたいと思います。



塩野 徳史

MASH大阪・代表/大阪青山大学・健康科学部看護学科・講師。2000年のころからMASH大阪に参加し、アウトリーチ活動を進めた。2003年にコミュニティセンターdistaと一緒に開設・運営し、2015年から代表となる。HIV/AIDSの予防対策の一環として、ゲイ男性向けの商業施設利用者や保健所での受検者を対象としたアンケート調査を協働で実施している。

MASH大阪：コミュニティセンターdistaを拠点として、中高年世代向け季刊誌「南界堂通信」を発行し、若年層向けに「やる!プロジェクト」を展開している。またHIV/梅毒の無料検査会「distaでピタッとちえっくん」を行政と協働して定期的に開催している。

休憩  
15:15  
セクシュアルヘルス  
&  
ライツ

「セックスワーカーと性の健康と権利」

健康（疾病や障害のあるなしにかかわらず、その人がその人なりによりよい状態にあること）を享受することは、基本的人権です。1994年の国連会議で公式に提唱された「性と生殖に関する健康と権利」、あるいはWAS（旧・世界性科学学会）の「性の権利宣言」には、「セックスワーカーの権利」に挙げられている項目がほぼすべて網羅されています。これらの権利概念が発展してきた歴史的背景とその意義について解説したいと思います。



東 優子

性科学者／大阪府立大学教授/女性学研究センター副主任。博士（人文科学）。91年にエイズのボランティア活動を始め、米国で性科学とソーシャルワークを学ぶ。公益財団法人エイズ予防財団（リサーチレジデント）、日本性教育協会（特別研究員）を経て、2000年より大学教員。2006-2011年度、厚労科研エイズ対策事業研究班の代表として、SWASHらと協働してセックスワークと性の健康問題に取り組む。WAS（World Association for Sexual Health）役員。

16:20  
セクマイ

「セックスワーカーとは誰のことか？」

果たして社会や支援現場は、セックスワーカーがセクシュアルマイノリティである可能性を考えているだろうか？社会規範の中で想定されていない層がセックスワーカーであるときに起きること。その社会背景と困難について考える。



宇佐美 翔子

RC-NET副代表。LGBTQアドボケーターとして、オールジェンダーの性暴力被害者をサポート。元セックスワーカー/元オナベ/元ホステスでもあり、情報が届きにくい人へのサポートとサポートの地域格差を減らそうと奮闘中。

17:25  
表現

「セックスワークと表現」

この数年、セックスワークを題材にした芸術や研究等での扱い方に人権侵害の側面があり議論を呼ぶ事がありました。何が問題なのか？表現や研究の題材にすることがタブーなのではありません。取り扱い方について、セックスワーカーの安全が脅かされないように熟考がなされる為のお話をします。パフォーマンス付き。聞き手：ブブ・ドラ・マドレーヌ（参照：「わたしの怒りを盗むな」http://dontexploitmyanger.tumblr.com/）



がいまきまき

女優/パフォーマンス等。2011年頃からSWASHメンバーに。メンバーとして国際エイズ会議やLondon Sex Worker Open University等にも参加。パフォーマンスとしては、ブブ、山田創平らの「水図プロジェクト」等に参加。2014年アムステルダムで滞在制作。飾り窓のセックスワーカーのコミュニティ等現地でリサーチし飾り窓地区にあるギャラリーでパフォーマンスを行った。

18:20  
＆  
18:50

質疑応答 + 全体ディスカッション

2日目

9:20  
トランスジェンダー

「トランスジェンダーのセックスワーク－「支援」に向けて知っておいてほしいこと－

トランスジェンダーのセックスワークの系譜、提供しているサービス内容、トランスジェンダー・セックスワーカーが直面しやすい諸問題、「支援」に取組む上で知っておいてほしいことについてお話しします。



畑野 とまと

ライター。トランスジェンダー活動家。29歳の時（95年）にニューハーフヘルス嬢としてデビュー。時を同じくホームページ・トランスジェンダーカフェを開設し、トランスジェンダーの情報発信を始める。引退後はライターをしながら、活動家として情報発信も継続している。



宮田 リリィ

2009 年から SWASH の活動に参加しているトランス女性。主な問題関心は、セックスワーカーやトランスジェンダーを対象としたエイズ予防の取組みを進めること。

10:25  
性暴力、スティグマ

「合意とは何か～性が暴力となる時～」

“本来的な合意とは言えない”、“自由意志の名を借りた暴力だ”。セックスワークを語る際に、女性への支援を掲げる方々からよく聞く声がある。その都度、「合意」という意味を考えてきた。性暴力被害者支援、そして当事者団体ということを掲げ活動をしてきた中で、セックスワークを生業とするサバイバーの話も多く聞いた。その人達は何を被害だと感じ、そして何を合意していたのか。果たしてそれは職業課題なのか、人権課題なのか。これまで考えてきた性と暴力についてのお話をします。



岡田 実穂

RC-NET（レイプクライシス・ネットワーク）代表。2003年から性暴力被害者支援に関わりだし、2009年にRC-NETを立ち上げ。当事者研究と、レイプトラウマ症候群についてが専門。http://rc-net.info/

11:30  
労働、外国人

「セックスワーカーの労働相談と犯罪被害」

SWASHが行ってきたホットラインの労働相談事例や、犯罪被害と対策について紹介します。日本人セックスワーカーだけでなく、外国人セックスワーカーなど、社会的に不安定な立場で働く人々の労働状況と諸問題についても幅広く網羅します。



要 友紀子

99年からSWASHで活動。セックスワーカーの調査、アウトリーチ、セックスワーカーが被害者となる事件の裁判傍聴多数。著作に、『風俗嬢意識調査～126 人の職業意識～』（ポット出版）等。

お昼休憩  
13:25  
＆  
14:45

【シンポジウム】  
「それぞれの現場から見えてくるもの～どう連携するか」

「身近な人から暴力を受けている(受けてきた)セックスワーカーの支援を考える」



NPO法人いくの学園 相談員

いくの学園の前身は売春防止法に基づく婦人保護施設。今はNPO法人となり、主にパートナーや家族から暴力を受けてきた人を支援しています。社会的に保障されていない立場の人が暴力を受けるリスクが高くなることを懸念しています。また、暴力から離れた後の生活回復支援にも力を入れています。

「二分論を乗り越える」



森 あい

SWASHの立ち上げ時のメンバー。弁護士（東京パブリック法律事務所（2011年～2014年）、阿蘇ひまわり基金法律事務所（2014年～現在））。



ファシリテーター：あかた ちかこ

大阪市立阿武山学園専門講師（性教育）、大阪人間科学大学・京都精華大学非常勤講師（対人援助学）。大阪市派遣カウンセラー（性感染症検査／HIV陽性告知）立命館大学大学院修士課程修了（応用人間科学）。大学在学中にエイズ予防啓発を始める。講演活動と並行し、若者やセクシュアルマイノリティ対象の相談業務に従事する中で、性感染症予防や妊娠防止だけに留まらない包括的性教育や恋愛・デートDVなどへと専門を広げた。

「セックスワークを始める前に知っておきたいこと」



谷口 恭

（医）太融寺町谷口医院院長。大阪市立大学医学部附属病院総合診療センター非常勤講師。NPO法人GINA代表。関西学院大学社会学部を卒業し商社勤務を経た後大阪市立大学医学部入学。研修医終了後、タイ国のエイズホスピスで医療ボランティアに従事し帰国後大阪市立大学医学部総合診療センター所属。日本プライマリ・ケア連合学会指導医。日本医師会認定産業医。労働衛生コンサルタント。主な書籍に「今そこにあるタイのエイズ日本のエイズ」（文芸社）など。現在毎日新聞「医療プレミア」に「実践、実践！感染症講義 命を救う5分の知識-」連載中。

14:55  
＆  
15:45

質疑応答 + 全体ディスカッション

【後援】

大阪市／バザールカフェ／ NPO 法人レジリエンス  
NPO 法人アジア女性資料センター／特定非営利活動法人 関西エイズ対策協議会